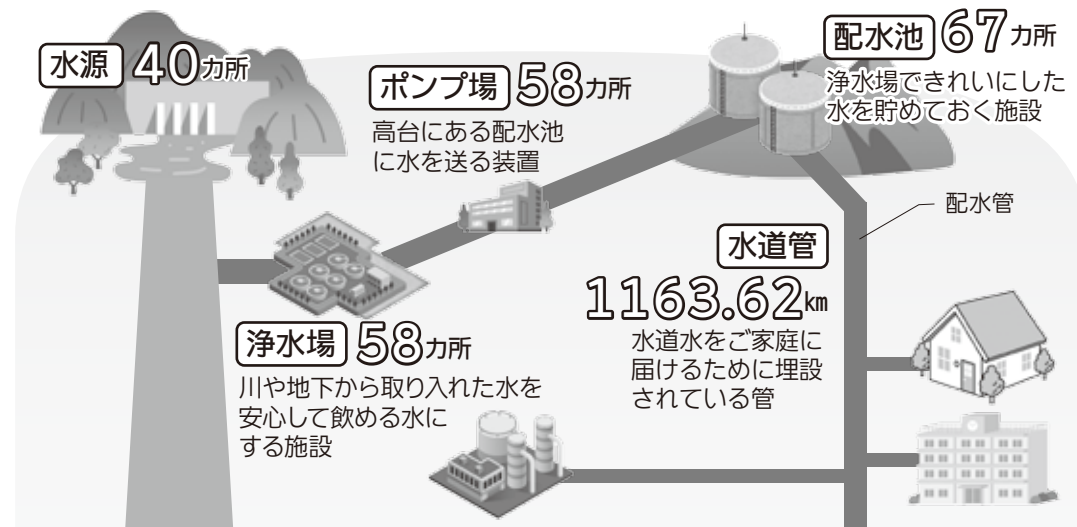


安全な水を届け続けるために

水道事業の現状と課題

☎ 水道経営課（☎内線 516）



水道水がご家庭に届くまで



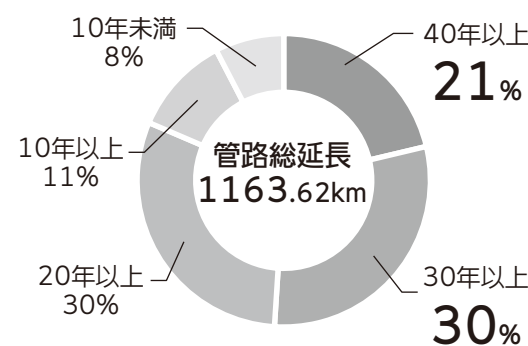
ご家庭で水道水を使うには、上の図のようになさまな施設が必要です。中津川市は広い市域と高低差をカバーして各ご家庭などに水を届けるため、多くの施設を利用しています。

お水をお届けするためにかかる費用
令和5年度決算
21.8億円

老朽施設・管路の更新が必要

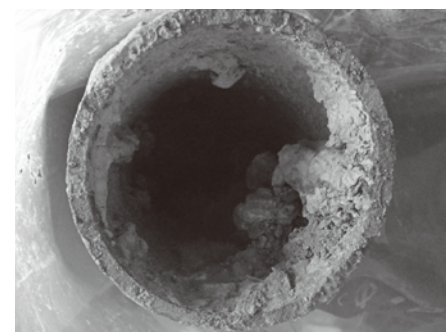
管路や浄水場などの施設は老朽化が進んでいます。管路については、法定耐用年数（40年）を経過した管路が21.29%あり（グラフ1）、更新時期を迎える管路は今後さらに増加します。老朽化による漏水も増えており、計画的な更新・修繕が必要不可欠です。

グラフ1 管路の取得時期の割合（令和6年3月31日現在）



施設・管路の更新に要した費用（建設改良費）

令和5年度決算
13.6億円



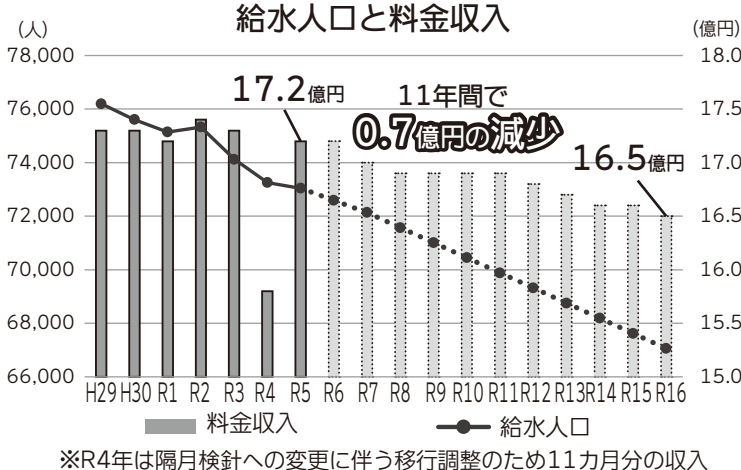
▲更新を行わない場合、管路経年化率（法定耐用年数を経過した管路の割合）は、令和16年度には56.15%になる予測。



▲水道管の老朽化により漏水が増加しています。517件（R4）、584件（R5）、349件（R6.10現在）

給水人口と料金収入の減少が進行
給水人口の減少に伴い、収入の大部分を占める料金収入が減少しています（グラフ2）。今後も減少が見込まれ、令和16年度には7千万円の減少を見込んでいます。

グラフ2

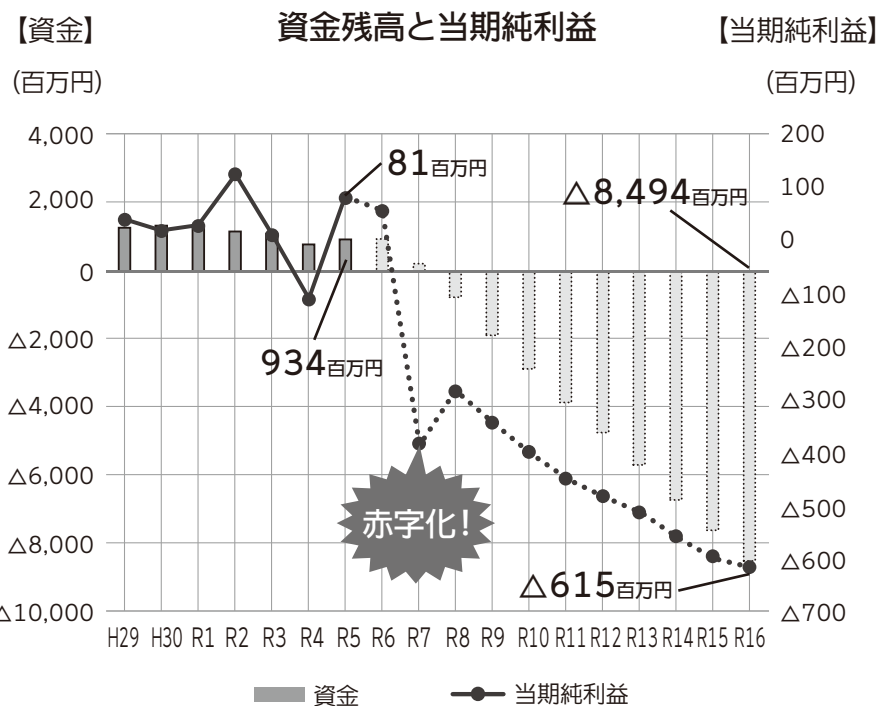


※R4年は隔月検針への変更に伴う移行調整のため11カ月分の収入

赤字経営と資金不足の恐れ

料金収入の減少と物価高騰の影響、修繕費の増加に伴い、市の水道事業の利益は減少し、令和7年度から当年度純損失（赤字）、令和8年度からは資金不足が発生する見通しです（グラフ3）。

グラフ3



※R4年は隔月検針への変更に伴う移行調整のため11カ月分の収入

安全な水を届け続けるために

安全な水を届け続けるためには、1mの水をお届けするためには、

資金不足により経営ができなくなる恐れがあるため、経営の見直しが必要となります。

図1 原価割れの実績と予測

H29実績	供給単価	193.0円/m ³	約5円の原価割れ
	給水原価	197.9円/m ³	
R5実績	供給単価	197.5円/m ³	28円の原価割れ
	給水原価	225.5円/m ³	
R16予測	供給単価	197.4円/m ³	約74円の原価割れ
	給水原価	271.7円/m ³	

る費用（給水原価）が、供給単価を下回る必要がありますが、中津川市は給水原価が供給単価を上回っている原価割れの状態です（図1）。

水道メーターの検針を毎月検針から隔月検針に変更するなど、経費の削減を行なっていますが、今後、料金収入の減少、物価高騰、修繕費の増加でさらに原価割れが進む予測です。

市では、持続可能な経営に向け、令和5年3月から中津川市上下水道事業経営審議会へ水道事業の現状と課題について説明し、審議いただいています。